


全国港湾Fax通信

No.

(公・事・取扱注意・親展)(写)	(発番)全国港湾18FAX第101号
(宛先)	2019年 5月29日 時 分
各 四役、中執、単組委員長、地区港湾議長 殿	(発信者)
(件名)	全国港湾書記局 

19 港湾春闘情報(終報)

(本文)

1. 5月14日(火)に19春闘第8回中央港湾団交「議事録確認」にもとづく第1回「小団交」を開催した。交渉が長期化し、とりわけ「統一回答・独禁法問題」と「事前協議違反の問題」については、解決に時間が必要と判断して小団交で協議を続けることとした。19春闘の諸要求について、現時点で確認できるものは整理して確認し、進められるものは進めていくために議事録確認として残した。

小団交で一定の時期に春闘要求の課題も詰められるところは詰めて、春闘合意として協定化できるよう進めることを求めた。日港協は持ち帰り検討するとした。そのうえで、次回小団交を5月31日(金)13:00から行うことを確認した。19春闘が長期化した責任は日港協にあり、長い歴史の中でも異常な交渉経過をたどっている。産業別団体交渉軽視、産別潰しを狙っているのか、その意図は不明だが、組合員の団結と強い決意で19春闘勝利にむけたたたかいを呼びかけるものです。さて、19春闘の賃上げ交渉も概ね収束に向かっていきます。5月29日現在の各単組の取り組みを下記し、今春闘の港湾情報を終報とします。

2. 各単組の取り組み状況について(5月17日現在)

- (1) 全港湾
- ① 基本給一律20,000円、65歳までの定年延長、労災補償の引き上げ、初任給の引き上げを求め、統一回答指定日は3月20日(水)を基本として、各地方の集中回答指定ゾーンを20日(水)から25日(月)とする。
 - ② 3月25日現在、回答平均額は速報分会で、3,833円、闘争分会で、3,495円となっており、昨年をやや下回る出だしとなっている。
 - ③ 速報分会の回答状況(5月11日現)、140分会中100分会(71%)に有額回答が示され、回答平均は、4,033円(率1.31%)。闘争分会は、321分会中218分会(68%)に有額回答が示され、回答額平均は、3,739円(率1.4%)となっている。
 - ④ 速報分会の回答状況(5月17日現)、140分会中110分会(79%)に有額回答が示され、回答平均は、3,995円(率1.28%)。その内87分会が出決し、妥結平均額は4,104円。闘争分会は、321分会中236分会(74%)に有額回答が示され、回答額平均は、3,754円(率1.36%)となっている。その内192分会(81%)が妥結し、平均額は3,907円となった。

- (2) 日港労連
- ① 基準内月額賃金20,000円、制度賃金6%引き上げ(基準内として)

を要求し、2月19日に要求書を提出した。

- ② 3月20日(水)に第3回港荷労使交渉で、業側は「統一回答は現時点ではできない」とした。それを受けて組合側は、統一回答を再度求めるとともに、事実上ゼロ回答であることから、3月31日(日)以降の毎日曜日の始業時から、翌日の始業時までの24時間ストを通告した。
- ③ 5月9日開催の第5回港荷団交で、個別労使による基準内賃上げ協議が整ったことを受け(基準内平均6,000円)交渉は妥結した。その他要求項目で、65歳定年延長について2020年4月1日より62歳定年延長について協定した。
- ④ 関連交渉は5月21日に開催した第3回関連交渉で、基準内月額4,000円以上で妥結した。
- ④ 全検労協は、5月28日開催の団交で妥結した。賃上げについては、全国平均4,370円(定昇、一律、職務経験加算込)となった。

(3) 検数労連

- ① 基本給一律20,000円要求と産別協定完全履行を求め、2月12日に要求書を提出した。産別課題や「働き方改革」による休暇の消化等職場環境の改善を求めた。有額回答指定日を3月27日(水)に変更した。
- ② 3月27日に第5回団交を開催。両協会は中央港湾団交の方向性が見えない中で、具体的回答は出来ないとした。組合は中央団交の決裂に伴い3月31日(日)以降の毎日曜日の始業時から翌日の始業時までの休務権行使を通告した。
- ③ 日検は5月13日開催した第8回団交で、4,994円(定昇込)の回答があった。全検は具体的金額の回答はなかった。次回は16日を予定している。
- ④ 5月16日開催した第9回労連団交で、全日検に対しベア回答、日検に修正回答を求めた。最終回答として、全日検は100円の上積みなどを含む全国平均4,370円(定昇、一律、職務経験加算込)を回答した。日検は修正回答は困難として、全国平均4,994円。更なる上積み求めて、次回団交は5月21日を予定している。
- ⑤ 5月28日第12回労連交渉を開催し、組合は各地域から「批准」または「一任」を受けて、現到達をもって「妥結」を表明した。

(4) 検定労連

- ① 海事検定職組一人平均17,225円(6.0%)要求、シンケン労組組合員一人平均14,069円を要求し、2月25日に要求書を提出した。
- ② 海事検定職組は3月27日開催の企業内交渉で、基本給5円の上積みで、1,025円の回答があった。
- ③ 検定労連は5月10日現在、各単組とも大筋合意となっている。
 - ・海事検定職組は、4,000円(基準内)+ α
 - ・(株)シンケン労組は、組合員一人平均月額、4,185円+ α
 - ・新日本検定(参考)は、労組組合員平均、3,642円

- (5) 全倉運
- ① 「5%+ α 」を統一要求基準とし、統一要求書の提出日は3月12日(火)、統一回答指定日を3月26日(火)とする。
 - ② 3月27日現在、単純平均(26組合)額で、5,074円(率で1.94前年比-867円(-0.36) 加重平均(3,014人) 4,986円(率で、1.81%)前年比-425円(-0.19)となっている。
 - ③ 5月10日現在、単純平均(31組合)額で、4,960円(率で1.88)前年比-539円(-0.23) 加重平均(3,098人) 5,191円(率で、1.89%)前年比-168円(-0.09)となっている。
 - ④ 5月28日現在、単純平均(34組合)で、5,044円(率で1.90%)前年比-507円(-0.22%) 加重平均(3,671人) 5,127円(1.87%) 前年比-134円(-0.07%)となった。

- (6) 大港労組
- ① 基準内賃金月額20,000円を要求。2月26日(火)に第1回団交を開催し、要求書主旨説明を行った。次回は3月22日を予定している。
 - ② 第3回船内統一団交を3月22日に開催した。業側は「中央団交の経緯もあり、現状では賃上げ回答はできない。また、元請との交渉も進んでいない。定年延長問題、退職金問題は統一での回答は困難である」と回答。組合側「現状賃上げ回答できない事は理解するが、定年制度と退職金問題については統一回答で前進をはかる事を前提で進めていく」とし、全国港湾指示のもとに、3月31日(日)始業時から24時間の就労拒否、荷役阻止を通告した。
 - ③ 5月10日(金)に第5回船内統一団交を開催した。個別賃金交渉を行い、終了後に各支部提示金額の確認と妥結意思確認を行った。

- (7) 全日通
- 2月12日(火)に要求書を提出した。賃金について2019年4月から新社員制度・新賃金制度等を労使で確認したことから、今春闘は「定期昇給相当分と調整資金」のみを要求した。一時金については、1人あたり平均年間140万円を要求した。

賃金について、4,780円(定期昇給および調整資金50円)、一時金は年間118万円(夏季一時金58万円、年末一時金60万円)で、3月14日に妥結した。

3. 他団体の賃上げ状況について

(1) 連合

5月10日現在、平均6,217円(2.10%)で、昨年同期を156円(0.01ポイント)上回った。中小組合は、4,925円(1.99%)と昨年同期を若干下回った。

(2) 国民春闘共闘

5月27日現在、単純平均(137組合)5,448円(1.99%)。加重平均(78,950人)6,001円(2.04%)

6,001 円(2.04%)

(3) 経団連

4月23日現在、大手60社 8,310 円(2.46%) / 昨年実績、6,998 円(2.17%)

4. 各単組の賃上げ結果一覧(5月29日現在)

単組名	賃上げ状況	
全港湾	回答平均	3,754 円 妥結平均額 3,907 円
日港労連	港荷労協	基準内平均 6,000 円
	関連職種	基準内月額 4,000 円以上
	全検労協	全国平均 4,370 円
検数労連	日 検	全国平均 4,494 円
	全日検	全国平均 4,370 円
検定労連	海事検定	一人平均 4,000 円 + α
	シンケン	組合員一人平均 4,185 円 + α
	新日本	現業一人平均 3,642 円
大港労組	船内統一団交	基準内平均 6,000 円
全倉運	賃上げ	単純平均35組合 5,044 円(賃上げ率 1.90%)
		加重平均 3,671 人 5,127 円(賃上げ率 1.87%)
全日通	賃上げ	4,780 円(定昇及び調整給 50 円)
	一時金	年間118 万円 (夏/58 万円 冬/60 万円)